

総合防災マップ

常在危機



日頃の備えがいのちを守る。
いつもの暮らしの中でできる防災を！

マップの見方・使い方

- 本防災マップは、平時から見やすい場所に置き、常に確認できるようにしてください。
- マップ上に表示してある土砂災害警戒区域・特別警戒区域については、崖崩れ及び土石流等の発生する可能性のある場所を示していますので、お近く（特に、下流側の地域）については十分に注意してください。
- 避難所については、災害によって住居を失う等、被害を受けた人や受ける可能性のある人が一定の期間、避難生活をする施設です。よって災害から一時的に避難をする場合を想定して、避難場所及び避難経路を各家庭または地区（自主防災組織）で決めておく必要があります。
- 各家庭において、自宅から避難所への避難経路をペンで塗るなどして表示し、常に確認するようにしましょう。

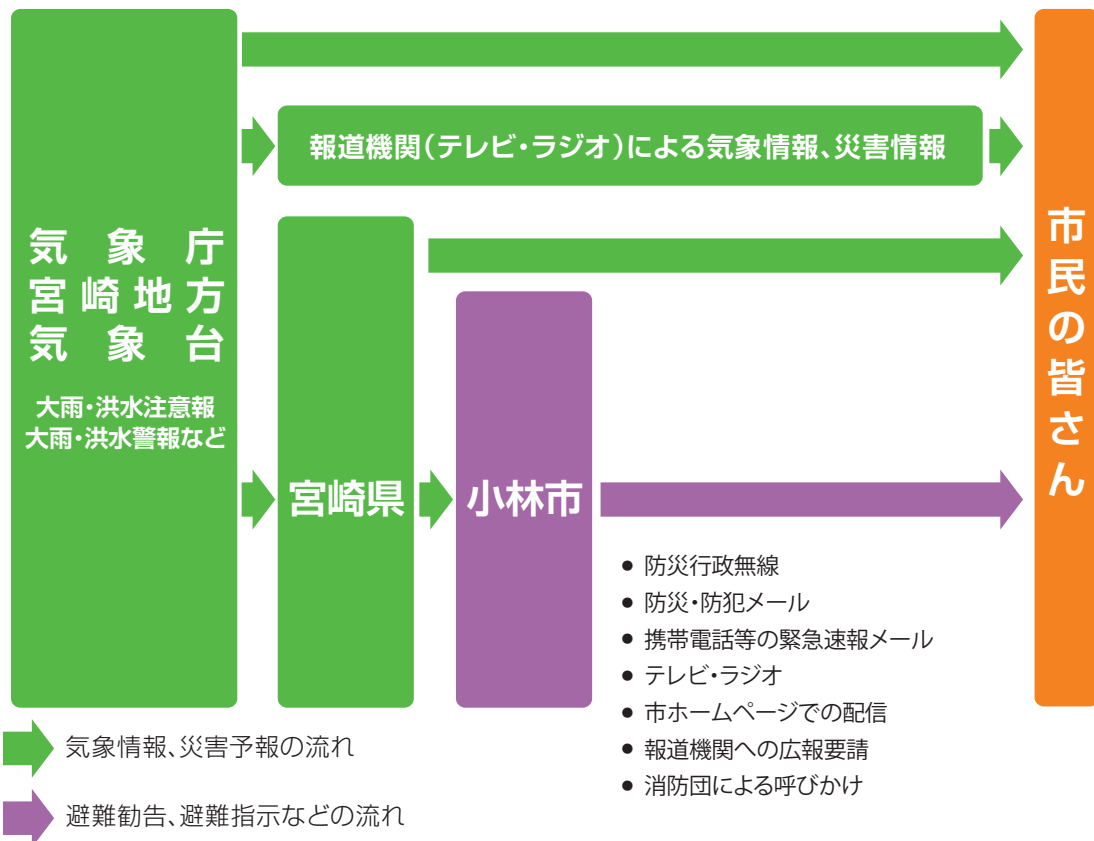
索引

マップの見方・使い方・索引……………巻頭	避難情報……………8
防災対策……………1	自主防災組織……………9
防災対策&チェック……………2	避難所等一覧……………10・11
非常時持ち出し品の準備&チェック……………3	防災に関する知識……………12・13
風水害……………4	凡例・発行にあたって……………13
土砂災害……………5	小林市全体図……………14・15
地震……………6	MAP1～21……………16～57
火山……………7	わが家の防災・緊急情報メモ……………裏表紙

防災対策（市民の皆さんのご協力をお願いします）

気象情報・ 防災情報 などの流れ

災害に関する注意報や警報が発表されたら、市からの情報に注意してください。



災害に 備えて

●家族で防災会議をしてみましょう

家族で話し合うこと



災害は、いつどこで起こるか予測しがたいものです。災害が起こった時、被害を最小限に食い止めるためには日ごろからの備えが大切です。

万が一に備え、家族の行動、避難所や避難方法、連絡方法などを日ごろから家族でよく話し合っておきましょう。

また、災害に備えて家の中と外をチェックし、危険な場所は早めに改善するようにしましょう。

- 家の中ではどこが安全か。
- 救急医療薬品や消火器などを備えているか。
- 避難するところはどこか、どのような経路を通過して避難するか。
- 避難するとき、誰が何を持ち出すのか、非常時持ち出し品はどこに置くか。
- 家族間の連絡方法と最終的に会う場所はどこにするか。
- 昼の場合と夜の場合の避難の方法はどのようにするか。
- 家族の役割分担はどうするか。
- 地域の防災活動に参加できるかどうか。

防災対策&チェック

事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

家の中の安全対策

☐ 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。

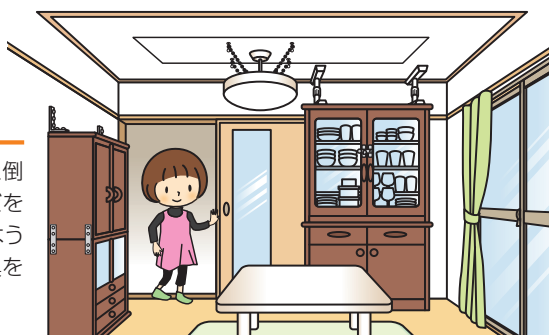
☐ 寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を倒れる方向へは置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。



☐ 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



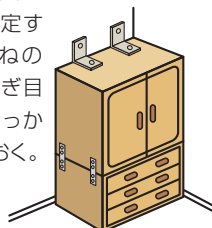
☐ 安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。

家具の転倒、落下を防ぐポイント

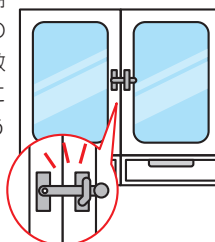
☐ タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



☐ 食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



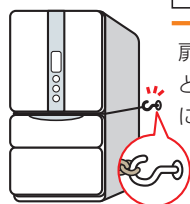
☐ 照明

チェーンと金具を使って数か所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



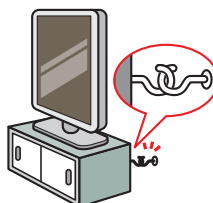
☐ 冷蔵庫

扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



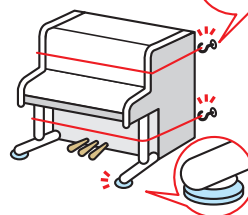
☐ テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。テレビとテレビ台を固定する。



☐ ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



家の周囲の安全対策

☐ 屋根

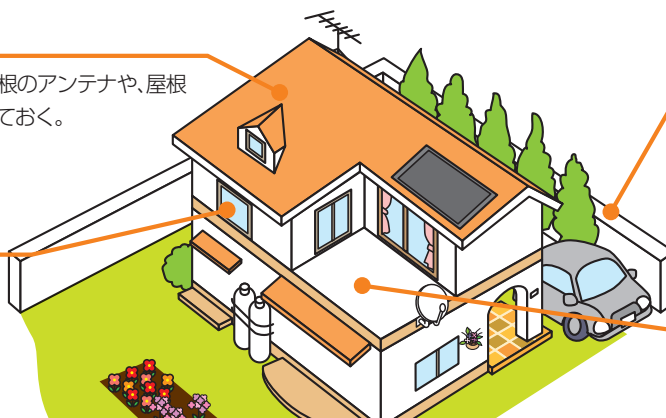
不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

☐ ブロック塀・門柱

土中にしっかりとした基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

☐ 窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。



☐ ベランダ

植木鉢などの整理整頓。落ちる危険がある場所には何も置かない。

非常時持ち出し品の準備&チェック

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。
事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

非常時 用 備 蓄 品 (例)

災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるようにチェック☑しましょう。

飲料水



- ☐ 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)
- ☐ 貯水した防災タンクなど

非常食品



- ☐ お米(缶詰・レトルト・アルファ米も便利)
- ☐ 缶詰・レトルト食品
- ☐ 梅干し・調味料など
- ☐ ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

燃料



- ☐ 卓上コンロ
- ☐ ガスボンベ
- ☐ 固形燃料

工具類



- ☐ スコップ
- ☐ ノコギリ
- ☐ パール
- ☐ ペンチ
- ☐ ジャッキ
- ☐ ロープ

その他

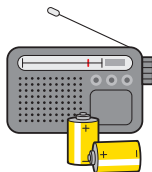


- ☐ 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- ☐ 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- ☐ 調理器具(なべ・やかんなど)
- ☐ バケツ・各種アウトドア用品など
- ☐ 皿・コップ・はし

- ☐ ラップ・アルミホイル・キッチンペーパー・缶切りなど
- ☐ 簡易トイレ
- ☐ ろうそく・新聞紙・段ボール・布製ガムテープ・着火ライター・マッチ
- ☐ スリッパ・長靴
- ☐ ほうきとちりとり

非 常 時 持ち出し品 (例)

携帯ラジオ



- ☐ ラジオ
- ☐ 電池(多めに用意)

救急医療品



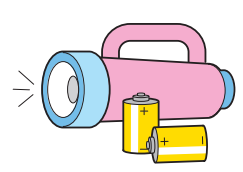
- ☐ 常備薬
- ☐ 鎮痛剤
- ☐ 傷薬
- ☐ 包帯
- ☐ 風邪薬
- ☐ 胃腸薬
- ☐ ばんそうこう
- ☐ 持病薬
- ☐ マスク

貴重品



- ☐ 現金
- ☐ 預金通帳
- ☐ 印鑑
- ☐ 免許証
- ☐ 健康保険証
- ☐ 権利証書
- ☐ カード類(コピー)
- ☐ 予備のキー

懐中電灯



- ☐ 懐中電灯(できれば一人にひとつ)
- ☐ 電池(多めに用意)

非常食品等



火を通さなくて食べられるもの、食器など

- ☐ 非常用食品
- ☐ ミネラルウォーター
- ☐ 缶切り
- ☐ 栓抜き
- ☐ 紙皿
- ☐ 紙コップ
- ☐ 水筒
- ☐ アレルギー対応の非常食
- ☐ 缶詰
- ☐ 軟らかい非常食

その他



- ☐ 衣類(下着・上着など)
- ☐ 生理用品
- ☐ タオル
- ☐ ヘルメット
- ☐ ラップフィルム(止血や食器にかぶせて使う)
- ☐ 防災マップ(本書)
- ☐ ティッシュペーパー
- ☐ トイレットペーパー
- ☐ ウェットティッシュ
- ☐ ナイフ
- ☐ 化粧品
- ☐ メガネ・予備のコンタクトレンズ
- ☐ 入れ歯・補聴器
- ☐ 大人用紙おむつ
- ☐ 補助具の予備
- ☐ 障がい者手帳
- ☐ ペット用品・ペットフードなど
- ☐ 母子手帳
- ☐ 離乳食
- ☐ 粉ミルク
- ☐ 紙おむつ
- ☐ 新生児用品・ほ乳瓶・おしりふき・おもちゃ
- ☐ カップ
- ☐ ライター
- ☐ 携帯電話の充電器
- ☐ ビニールシート
- ☐ ペーパー歯みがき
- ☐ 防犯ブザー

1週間を想定した工夫と備え

ローリングストック法で備蓄した非常食を活用

ローリングストック法

定期的(1ヶ月に1、2度)に食べて、食べた分を買い足し備蓄していく方法です。
食べながら備えるため、消費期限が短いレトルト食品等も非常食として扱えます。

※1週間分の飲料水、また生活用品も備えましょう。飲料水は1人1日3ℓ×家族分の準備を。

大雨や台風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

まずは、確実な情報が大事
その次に迅速な対応

大雨情報をキャッチ! こんなときのわが家の安全対策

大雨注意報・警報・特別警報の発表基準



大雨注意報

大雨による災害が発生するおそれがあると予測される場合。

大雨警報

大雨による重大な災害が発生するおそれがあると予測される場合。

大雨特別警報

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予測される場合。

特別警報は大規模な災害の発生が切迫していることをお知らせする警報です。

特別警報が発表されたら

非常事態

- ・尋常ではない大雨が予想されています。
- ・重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ・ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

□避難勧告等に従い直ちに避難所に避難! 外出が危険なときは、家の中で少しでも安全な場所に移動
「住居の位置」や「住居の構造」、「既に浸水が生じている状況なのか否か」によって「自宅外避難」の必要性は異なりますので、冷静な判断が重要です。災害から命を守ることができる行動を考えておきましょう。

雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10 mm以上～20 mm未満	20 mm以上～30 mm未満	30 mm以上～50 mm未満	50 mm以上～80 mm未満	80 mm以上～
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10m/秒以上～15m/秒未満	15m/秒以上～20m/秒未満	20m/秒以上～25m/秒未満	25m/秒以上～
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風

日本には、毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらしています。
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

(平均風速:m/秒)

大きさ	風速15m/秒以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500 km以上～800 km未満	強い	33m/秒以上～44m/秒未満
超大型(非常に大きい)	800 km以上	非常に強い	44m/秒以上～54m/秒未満
		猛烈な	54m/秒以上

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。
発生の予測は難しく、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ◆ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- ◆早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- ◆非常時持ち出し品を準備しておく。
- ◆危険な地域では、いつでも避難できるよう準備する。
- ◆停電に備え、懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- ◆浸水に備え、家財道具は高い場所へ移動する。

記録的短時間大雨情報

県内で数年に一度しか発生しないような猛烈な短時間の大雨を観測又は解析したときに、府県気象情報の一種として発表されます。

大雨などにより、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。事前にその災害のメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。

土砂災害警戒情報とは

「土砂災害警戒情報」は大雨による土砂災害発生の危険度が高まったとき、气象台と県が共同して市町村単位で発表し、市町村長が防災活動や避難勧告等の災害応急対応を適時適切に行えるよう支援する制度。

また住民の自主避難の判断等にも利用する情報。

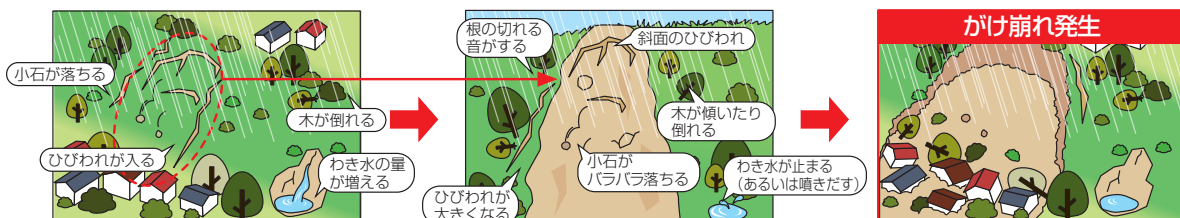
※「土砂災害警戒情報」が発表された場合には、対象地域に「避難勧告」又は「避難指示(緊急)」を発令します。市からの情報に十分注意してください。

土砂災害

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気づいた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難しましょう。また、日ごろから危険箇所や避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



※右記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難しましょう。

地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土壌量が大いため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



緊急地震速報のながれ



地震発生！



地震計

震源近くの地震計で地震波をキャッチ！



気象庁

震源や規模、予想される揺れの強さ(震度)等を自動計算し、緊急地震速報を発表！



テレビ・ラジオなど

地震による強い揺れが始まる前に素早くお知らせ！

「緊急地震速報のながれ」(気象庁ホームページより)

ピロロロロロロロロロロロ



プープープー地震です

《緊急地震速報》

地震波が2点以上の地震観測点で観測され、最大震度が5弱以上と予想された場合に、震度4以上が予想される地域に発表します。

地震発生

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

最初の大きな揺れは約1分間

◆頭を保護し、じょうぶな机の下など安全な場所に避難する。 ◆あわてて外へ飛び出さない。 ◆無理に火を消そうとしない。

揺れがおさまったら

◆火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火。 ◆家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認。
◆靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく。
◆避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等に注意。

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に声をかけよう ◆災害弱者の安全確保 隣近所で助け合う。 ◆行方不明者はいないか。 ◆ケガ人はいないか。

出火防止
初期消火

◆初期消火 消火器を使う バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく。
◆漏電・ガス漏れに注意。 ◆電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める。 ◆余震に注意。

ラジオなどで正しい情報を得る

◆大声で知らせる。 ◆救出・救護を。 ◆防災機関、自主防災組織の情報を確認。
◆デマにまどわされないように。 ◆避難時に車は極力使用しない。 ◆電話は緊急連絡を優先する。

協力して消火活動、救出・救護活動

◆水、食料は蓄えているものでまかなう。 3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく。
◆災害・被害情報の収集。 ◆無理はやめよう。 ◆助け合いの心が大切。 ◆壊れた家に入らない。

1～2分

3分

5分

10分
数時間

3日

屋内にいた場合

家の中

- ◆小さな揺れの時、又は揺れがおさまった後に、窓や戸を開け、出口を確保しましょう。
- ◆火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- ◆乳幼児や病人、高齢者など災害弱者の安全を確保する。
- ◆裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

デパート・スーパー

- ◆カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。
- ◆柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。
- ◆カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。
- ◆あわてずに冷静な行動をとる。

劇場・ホール

集合住宅

- ◆ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- ◆避難にエレベーターは絶対に使わない。
- ◆炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

屋外にいた場合

路上

- ◆その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- ◆近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ◆ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- ◆倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

車を運転中

- ◆ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- ◆揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- ◆避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。
- ◆車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

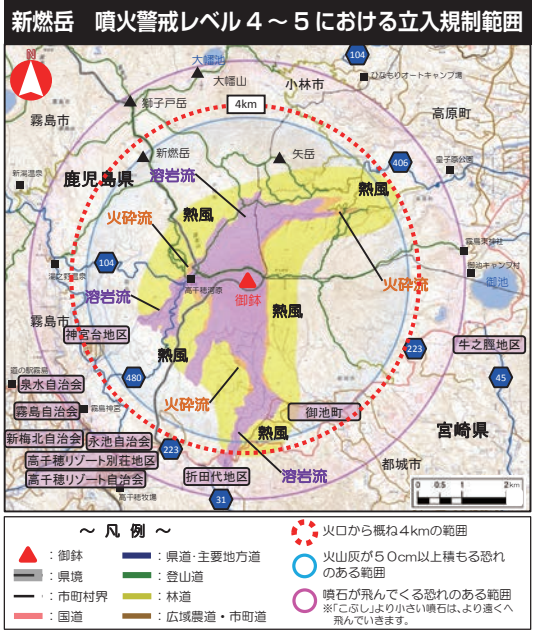
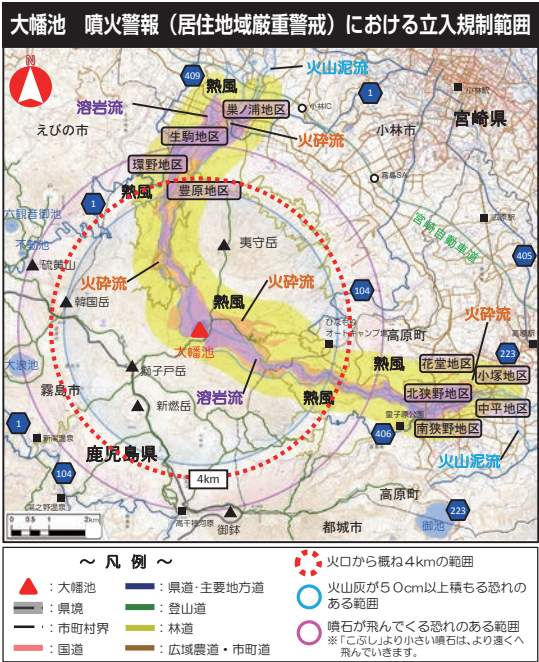
海岸付近

- ◆高台へ避難し津波情報をよく聞く。
- ◆注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

電車などの車内

- ◆つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- ◆乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。
- ◆途中で止まっても、非常口を開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。

規模の大きな噴火が起こった場合の災害区域予想図



この「災害区域予測図」は、「霧島山火山防災協議会」監修の「霧島山火山防災マップ」から引用しております。
※霧島山火山災害に関するハザードマップは、別途作成しております。問合せは市危機管理課へ。

噴火速報

噴火速報は、気象庁が噴火の発生事実を迅速に発表する情報です。登山中の方や周辺にお住まいの方に、火山が噴火したことを端的にいち早く伝え、身を守る行動をとっていただくために発表します。

噴火警戒レベル

種別	名称	対象範囲	レベル (キーワード)	火山活動の情報
特別 警報	噴火警報 (居住地域)	居住地区及び それより火口側	レベル 5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、 あるいは切迫している状態と予想される
			レベル 4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生する 可能性が高まっていると予想される
警報	噴火警報 (火口周辺)	火口から居住地域 近くまで	レベル 3 (入山規制)	居住地域近くに重大な影響を及ぼす、(この 範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ) 噴 火が発生、あるいは発生すると予想される
		火口周辺	レベル 2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす、(この範囲に入った 場合には生命に危険が及ぶ) 噴火が発生、あ るいは発生すると予想される
予報	噴火予報	火口内等	レベル 1 (活火山であることに留意)	火山活動は静寂。 火山活動の状態によって、火口内で火山灰の 噴出等が見られる (この範囲に入った場合に は生命に危険が及ぶ)

市では、皆さんの生命に危険が及ぶと判断した場合、「避難準備・高齢者等避難開始」、「避難勧告」、「避難指示(緊急)」を発令し、避難を促します。避難勧告などを発令するときは、さまざまな状況を総合的に判断して発令します。

大雨のとき

大雨のときの避難行動

避難は災害から命を守るための行動です。大雨による災害から身を守る避難行動は、従来、避難勧告等の発令時に行う避難所への避難が一般的でしたが、今後は次のすべての行動を避難行動とします。

指定避難所
への移動

警戒区域等内の自宅などから
移動し、安全な場所への避難
(公園、親戚や友人の家等)

近隣の強固で
高い建物等へ
の移動

建物内の安全な場所での待避
(家屋内の垂直避難)
やむを得ず、家屋内に留まった場合、安全を確保する避難行動として、洪水対策では建物の2階以上高いところへ、土砂災害対策には斜面と反対方向の高い階への移動が有効です。

屋外が安全で移動できる状態のとき

屋外が危険な状態などのとき

※特に、河川氾濫の浸水想定区域や土砂災害警戒区域にお住まいの方は、皆さんが早め早めに判断をして、「危ない」と思ったら、ただちに危険な区域から離れる。自主避難をすることが命を守ることになります。

避難

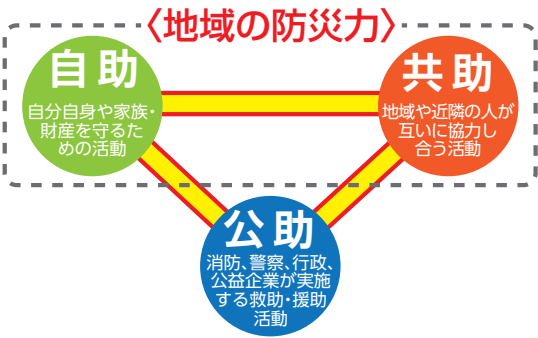
情報の種類	発令時の状況	市民に求める行動
(1) 自主避難	災害の危険が迫っていると自ら判断した場合の避難となります。	- 必要に応じて地域の安全な場所に避難してください。 - 避難中の食料や生活必需品はご自分で用意してください。 
(2) 避難準備・ 高齢者等 避難開始	- 避難するのに時間を要する要配慮者等は、避難を始めなければならない状況です。 - 災害による人的被害が発生する可能性が高まっている状況です。	- 避難に時間を要する人(ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児をお連れの方等)とその人を支援する人は避難を開始しましょう。 - いつでも避難ができるよう準備をしましょう。身の危険を感じる人は、避難を開始しましょう。 
(3) 避難勧告	- 通常の避難ができる方についても避難を始めなければならない状況です。 - 災害による人的被害が発生する可能性がさらに高まっている状況です。	- 避難所や安全な場所・建物へ速やかに避難を始めてください。 - 避難勧告のときも食料と非常持ち出し品を持って、避難しましょう。 
(4) 避難指示 (緊急)	災害の前兆現象の発生や切迫した状況から、人的被害が発生する可能性が非常に高まっている状況、または実際に人的被害が発生した状況です。	- 避難中の人は確実に避難を完了してください。 - いまだに避難していない人は、直ちに避難所へ避難を始めてください。 - 避難の時間的な余裕がない場合は自ら考え生命を守る最低限の行動をとってください。 - 山の斜面の反対側、家の2階以上、近所の安全な場所へ避難してください。 

※危険性が高い場合、いきなり「避難指示」が発令されることもあります。

災害に強い地域をつくりませんか？

地域の
防災力

災害発生時には、自助・共助・公助の連携により人的・物的被害を軽減することができます。
ひとたび大規模な災害が発生したときには、公的機関が行う活動（公助）は交通網の寸断や同時多発火災などにより十分対応できない可能性があるため、個人の力で災害に備える（自助）とともに、地域での助け合い（共助）による地域の防災力が重要となります。 ※小林市では、区単位で自主防災組織を結成しています。
災害に強い地域づくりを目指して、災害時の被害を軽減するため、「自主防災組織」の活動を通じて、共助の強化、地域の防災力の強化に向けた取組を始めてみませんか？



1. 自主防災組織とは？

- 災害発生時はもちろん、日ごろから地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織を「自主防災組織」と言います。
- 平常時には防災訓練や広報活動、災害時には初期消火、救出救護、集団避難、避難所への給食・給水などの活動を行います。



2. なぜ、自主防災組織が必要なの？

- 大規模な災害が発生した場合、消防署などの防災機関だけでは、十分な対応ができない可能性があります。
このような時、地域の皆さんと一緒に協力し、災害や避難に関する情報の伝達、避難誘導、安否確認、救出救護活動に取り組むことで被害の軽減を図る事ができます。また、活動を迅速に進めるためには「お互いに顔の見える関係」の中で、事前に地域内で役割分担を決めておくことが有効です。
より効率よく、さまざまな活動をするためにも事前の準備（体制づくり）が重要です。

○各班の平常時（日ごろ）と緊急時（災害発生時）の活動内容は概ね次のような役割になります。

	情報班	消火班	避難誘導班	救出救護班	給食・給水班
平常時	○住民に対しての連絡体制、手段の検討 ○情報収集・伝達訓練の実施 ○防災意識の啓発、高揚に関する広報 ○公的防災機関との連携確保	○初期消火訓練の実施 ○消火用水の確保、確認 ○出火防止の啓発	○事前に避難路、避難場所を把握 ○避難誘導訓練の実施 ○避難路の安全点検 ※危険箇所（がけ、ブロック塀）などの確認等 ○避難行動要支援者の把握	○応急手当、衛生知識の普及 ○救命講習への参加 ○応急医薬品、救助資機材の確保、点検 ○技能、ノウハウを持った住民の把握 ○救助用資機材の点検・確保	○食料、飲料水の個人備蓄についての普及啓発 ○炊き出し訓練の実施 ○炊き出し用資機材の確保、点検
緊急時	○災害情報を住民に対して正確かつ迅速に伝達 ○地域内の被害情報を収集し、本部へ報告 ○混乱回避、出火防止等の広報	○初期消火活動 ※消防署、消防団の到着までの延焼拡大を防ぐのが基本です。無理はしないで!! ○情報班と連携しての出火防止等の広報	○情報班と連携しての避難の呼びかけ ○安全な経路を選択しての避難誘導 ○避難行動要支援者の避難支援 ○避難地での安否確認 ○安否確認による救出救護班への情報伝達	○避難誘導班と連携しての速やかな救出 ※救出活動は危険を伴う場合があるため、二次災害に十分注意して下さい。 ○負傷者の搬送、応急手当の救護 ○避難所・救護所での救護活動への協力	○食料や水、救援物資等の受入、配布 ○必要に応じて炊き出し